

NPO法人 地域の寄り合い所 また明日

プログラム概要	： 地域の寄り合い所 また明日にて地域の子どもたちや高齢者と関わる
実習先	： NPO法人 地域の寄り合い所 また明日（東京都小金井市）
実習先情報	： 2006年12月、「お年寄りも、小さな子も、小学生も、それぞれが主体となって、あるときは支え、あるときは支えられる。そういう関係性が生まれる場をつくりたい。」と思い始めた。
参加人数	： 2名
学部学科	： 幼児教育学科、社会福祉学科
実習期間	： 令和5年8月7日（月）～8月25日（金）15日間 前半
本学担当教員	： 國吉正彦

○はじめに

NPO法人 地域の寄り合い所 また明日は、保育所、認知症のデイホーム、地域の寄り合い所、3つの機能をあわせ持つ施設です。保育所には、男の子6人、女の子5人の計11人が通っています。デイホームには10人ほどの高齢者が通っています。寄り合い所には、地元の小学生たちが来ており、小学生同士で遊んだり、子どもたちや高齢者とも関わっています。

○実習内容

《保育所》

- ・子どもと遊ぶ
- ・絵本の読み聞かせ
- ・ご飯のお手伝い
- ・おやつのお手伝い
- ・寝かしつけ
- ・着替え
- ・お風呂
- ・手洗い
- ・お散歩

《認知症のデイホーム》

- ・お話
- ・手遊び（お手玉やあやとりなど）
- ・お散歩
- ・ご飯やおやつの配膳

《地域の寄り合い所》

- ・トランプ
- ・カードゲーム
- ・野球やおにごっこ
- ・お絵描き
- ・パンケーキ作り
- ・地域食堂

○経験したこと、学んだこと

《保育所》

・子どもたちとの関わり方は難しく、子どもそれぞれで全く違うことを学びました。月齢が1か月違うだけでできることが増え、子どもの成長について間近で体験することができました。また、1歳児クラスの4月生まれの子と11月生まれの子では、遊びのレベルも話すことのできる言葉の量も違うので、その子にあった対応が必要だと学びました。

・この経験を経て、学問では学べない子どもたちの成長を見ることができました。自分の意志や気持ちを言葉で伝えようとしたり大人の感情を読み取ったりするなど私が思っている以上に子どもたちにできることがあることを学びました。

《認知症のデイホーム》

・認知症の方との関わり方について学ぶことができました。「また明日」に来ている方は、話すことが大好きな方が多く、沢山話しかけていただきました。話す内容が同じことが多く、話しかけようとしてくれている結果、同じ内容になるのではと思いました。

・「認知症の方が同じ話をするのは、緊張をしているからだ。」と聞いたときはお互いに緊張していることを学びました。それを踏まえたうえで私から質問をしたり質問されたりそれぞれのタイミングでお話をすることができました。

《地域の寄り合い所》

・小学生を含めた地域の方との関わりを多く持つことができました。「また明日」は地域に根付いた施設であり、地域食堂を開いたり、お店の方が来てパンケーキを一緒に作ったりと、他ではできない体験ができる良い施設だと思いました。それと同時に、地域の方同士の関わりは大事であると学びました。

・年齢や性別問わず多くの方と関わりました。それぞれにあったコミュニケーションの取り方や言葉遣いを学びました。人と話すときの目線はコミュニケーションを取るうえで大事なものだということを知りました。

○今後の展開、今後の学び、

この経験を経て学んだことはもちろん、それぞれが感じたことや考えたことをさらに追及し今後の大学生活に活かしたいと考えました。そして、この学びや経験を各自の将来に繋げていきたいです。

○まとめ

この施設は利用者にとって安心できる居場所なのだと思います。それぞれの「できる」を伸ばしたり増やしたりして関係を紡いでく場所でした。FSを通して観察力や課題発見力など多くの力を身につけることができました。

○担当教員コメント

子どもと高齢者にどのように対応していけば良いか、上手くできない面があった。その要因を再度検討していくことが今後に向けて必要である。検討することにより対人援助職のあり様について深めることができる。

○実習先コメント

・社会福祉についての知識だけではなく、それを活かすための学びの態度を学生生活の中で身につけてほしい。

・相手の立場に立って感じたり考えたりする力を学生生活の中で身につけてほしい。

NPO 法人 地域の寄り合い所 また明日

- プログラム概要 : 赤ちゃんからお年寄りまで、小中高生や地域の人とも立ち寄る「また明日」にて地域の人々と交流します。乳幼児のお世話や、小中学生の話し相手、勉強の見守り、高齢者に寄り添いながらサポート業務を行います。
- 実習先 : 【活動場所】NPO 法人 地域の寄り合い所 また明日
(〒184-0014 小金井市貫井南町4丁目14番14号ヴィレッジ・パル1階)
- 実習先情報 : 2006年6月20日に創立された。
- 参加人数 : 2名
- 学部学科 : 社会福祉学科、日本文学文化学科
- 実習期間 : 令和5年8月28日(月)～9月15日(金) 15日間 後半
- 本学担当教員 : 國吉正彦

○はじめに

「地域の寄り合い所 また明日」という施設は、認知症の方のデイホーム、認可保育園、だれでも気軽に立ち寄れる寄り合い所の3つの事業を行う多目的福祉施設である。

○実習内容

- AM10:30 朝のご挨拶から一日が始まる！
- AM11:00 子供たちと高齢者の方々が近所の公園や散歩を通じてそれぞれが交流
(こまめな水分補給)
- PM00:00 外から戻ってきたら手洗いと子供たちのシャワー後着替え補助
- PM00:30 子供たちの食事補助
- PM01:30 休憩
- PM02:45 子供たち就寝中に高齢者の方との交流
- PM03:00 おやつ
- PM4:30 みんなに見送られながらかえる



○経験したこと、学んだこと

・子供たちがシャワーが嫌でなかなかお風呂場に入りたがらず、ぐずったり、泣いているとき、ただなだめるだけでなく、「じゃあ、体タオルで拭いていい？」などの別の提案をしたり、「シャワー終わったら、一緒にご飯食べよ！（おもちゃで遊ぼう）」と、シャワー終わりにご褒美があることを伝えるとすんなり入ってくれたことから、シャワーのときだけでなく、ごはんやおやつ、水分補給のときも、こういう場では臨機応変に対応することが大事であるということ学んだ。(松井)

・私は高齢者の方や小さな子供と普段交流することが少ないため、何から何でもやってあげることが良いことだと思っていたが、実習を通じて間違っていたと分かった。また明日では、直接何かをやらせたり、やってあげたりすることはない。例えば、洗濯物を畳む際高齢者の方に声をかけたり、近くで何か物事をする事で自分から興味を持つように雰囲気作りをしていた。高齢者の方となると誰かに頼られることが少なくなってしまうため自分の役割を失ってしまう。そして、人と関わること「自体も少なくなってしまうため、頼られることの重要性を知ることができて良かった。最後に、また明日を一言で説明すると「みんなで支え合いながら生活する場であると思った。高齢者の方は子供がいることが生きがいに繋がると言っていたり、小さい子供は高齢者の方に散歩中花や生き物の説明をしてもらえることで視野が広がると思った。(市川)

○今後の展開、今後の学び

・また明日では、0歳～高齢者と、様々な年齢の人たちがいて、私は教師を目指しているが、この施設に来ている小学生たちにあまり自分から積極的に話しかけにいかず、自分の弱点を知ることができたから、今回の実習を通して得たものを今後の教育実習や、教員人生に活かし、自分でも子供達でも良い先生と思えるようになるようにしたい。(松井)



・バリアフリーというものは高齢者の方や足が不自由な方の生活をする上で障害となるものを取り除いた状態であると思っていた。しかし、今の日本ではバリアフリー化を進めることでよりその方々の自由を奪ってしまうことに繋がってしまうことを学んだ。そのため、バリアフリー化を進めることより、高齢者の方々の自主性を尊重したり、相手の立場に立って考え、観察、情報交換等を行うことが大切であると考えが変わった。今後は施設選びや介護する側の時にこれらのことを心がけていきたいと思う。(市川)

○まとめ

また明日では子供と高齢者の方が同じ空間にいてお互いが影響しあうことができ、支えあっていることをこの実習を通して学んだ。

○担当教員コメント

子どもと高齢者にどのように接していけば良いか、上手くできない面があった。単に接し方だけではなく、なぜ、子どもと高齢者が一緒に過ごすのか、「寄り合い所また明日」という名前の意味をしっかりと捉えることが必要である。また、バリアフリーについて、多面的多角的な捉え方をする視点を得たことは今後の学習に向けての示唆になった。

○実習先コメント

・学ぶ上で必要な思考力、表現方法を学びながら福祉の現場で求められる資質を身に付けてほしい。